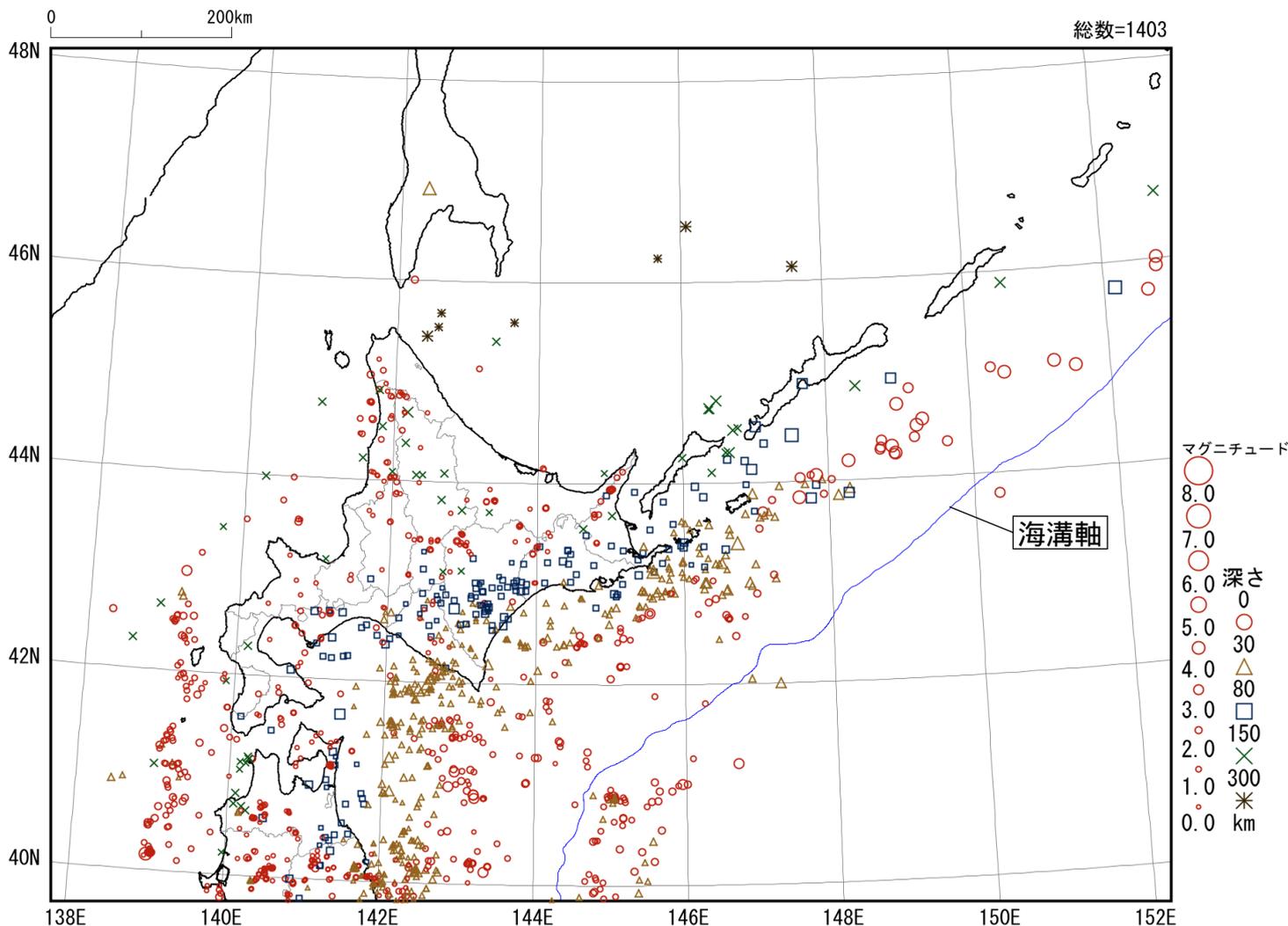


北海道の地震活動図

2024年6月1日～2024年6月30日

震央分布図

札幌管区気象台



地震概況（2024年6月）

この期間、北海道内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は7回（5月は10回）でした（「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

震度3以上を観測した地震はありませんでした。

この活動図は、札幌管区気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/earthquake_report.html

この資料に関する問い合わせ先 札幌管区気象台 地震火山課 TEL 011-611-6125

北海道で震度1以上を観測した地震の表(2024年6月)

年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2024年 6月12日 日高地方	14時35分 震度2	浦河沖 新冠町北星町*(20) 新ひだか町静内山手町(16) 新ひだか町三石旭町*(19) 浦河町野深(24) 浦河町潮見(23) 浦河町築地*(22)	41°59.3 N	142°33.9 E	65 km	M4.4
	震度1	日高地方日高町門別*(05) 平取町振内*(09) 新ひだか町静内御園(12) 新ひだか町静内御幸町*(14) 新ひだか町静内農屋*(05) 様似町栄町*(12) えりも町目黒*(10) えりも町えりも岬*(12)				
石狩地方	震度1	札幌東区元町*(12) 札幌白石区北郷*(07) 札幌厚別区もみじ台*(09) 江別市高砂町(05) 江別市緑町*(10) 千歳市北栄(06) 新千歳空港(05) 千歳市支笏湖温泉*(05) 恵庭市京町*(09) 北広島市中之沢*(12)				
渡島地方	震度1	函館市泊町*(06)				
空知地方	震度1	南幌町栄町*(11)				
胆振地方	震度1	胆振伊達市大滝区本町*(05) 白老町竹浦(07) 厚真町鹿沼(08) 安平町早来北進*(11) 安平町追分柏が丘*(13) むかわ町穂別*(08)				
十勝地方	震度1	帯広市東4条(06) 帯広市東6条*(07) 十勝清水町南4条(06) 芽室町東2条*(07) 幕別町忠類錦町*(14) 豊頃町茂岩本町*(06) 本別町北2丁目(07) 本別町向陽町*(07) 浦幌町桜町*(14) 更別村更別*(07) 十勝大樹町東本通*(08) 広尾町並木通(10) 広尾町白樺通(12)				
2024年 6月14日 釧路地方	02時44分 震度2	根室半島南東沖 浜中町茶内*(19) 標茶町塘路*(16)	43°07.5 N	145°34.5 E	80 km	M4.0
	震度1	標茶町川上*(09) 鶴居村鶴居東*(12)				
根室地方	震度2	標津町北2条*(16) 別海町西春別*(17) 根室市瑠璃瑠*(15)				
	震度1	中標津町養老牛(10) 羅臼町岬町*(11) 別海町常盤(14) 別海町本別海*(10) 根室市牧の内*(06) 根室市厚床*(14) 根室市落石東*(07)				
2024年 6月18日 日高地方	01時31分 震度1	浦河沖 新ひだか町三石旭町*(08) 浦河町潮見(07) 浦河町築地*(06)	41°56.2 N	142°26.6 E	65 km	M3.6
2024年 6月20日 渡島地方	14時37分 震度1	岩手県沖 函館市泊町*(09)	40°07.8 N	142°29.0 E	38 km	M4.7
2024年 6月27日 渡島地方 日高地方	20時27分 震度1 震度1	浦河沖 函館市川汲町*(05) 新ひだか町三石旭町*(06)	42°02.8 N	142°36.2 E	63 km	M3.5
2024年 6月28日 胆振地方 日高地方	15時43分 震度1 震度1	浦河沖 厚真町鹿沼(09) 安平町追分柏が丘*(10) 新ひだか町静内山手町(09) 新ひだか町静内御幸町*(08) 新ひだか町三石旭町*(07)	41°55.3 N	142°19.4 E	69 km	M3.7
2024年 6月29日 根室地方	15時49分 震度1	北海道東方沖 別海町常盤(06) 根室市落石東*(12) 根室市瑠璃瑠*(09)	43°24.0 N	146°43.8 E	46 km	M4.6

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号平29情使、第798号)。

【防災メモ】

～「津波フラッグ」について～

「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、「津波警報等」という）が発表されたことをお知らせする旗です。津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

津波フラッグは、視認性や色覚の多様性を重視した上で外国人へも配慮し、海からの緊急避難を知らせる意味で海外でも用いられている「赤と白の格子模様」の旗としています。この旗は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです。

●利用上の注意点

- 津波フラッグが用いられる場所は、海水浴やマリンスポーツなどを行う人がいる海水浴場等の海岸です。
- 津波フラッグの掲示は、砂浜や海水浴場の監視台等においてライフセーバーや監視員が振る、監視台や海岸沿いの施設に掲示するなどの方法が用いられます。
- 津波フラッグの伝達実施者の安全が確保されない場合、津波フラッグの掲出は行われません。
- 全国的には、海水浴場での津波フラッグの導入は少しずつ広がりつつある状況ですが、津波フラッグが導入されていない海水浴場や、運用されない時間や期間もあります。
- 海水浴場で強い揺れや弱くても長い揺れを感じた後は、津波フラッグを見かけずとも、速やかに海辺から離れ、より高い安全な場所へ避難してください。

●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

- 津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



※U旗は右図のように他の国際信号旗と組み合わせることで、別の意味になることがあります。

